

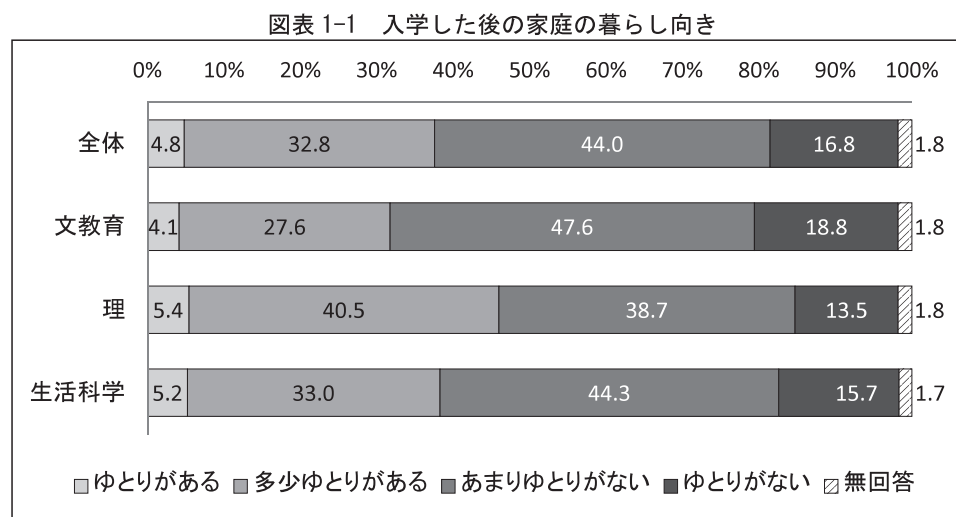
第2章 「新入生の保護者調査」の結果報告

(1) 家庭の暮らし向き

本節では、新入生の家庭の暮らし向きについて、①大学入学後の家庭の暮らし向き、②家計支持者の職業、③家計支持者の年収、④世帯年収から示していく。

①大学入学後の家庭の暮らし向き

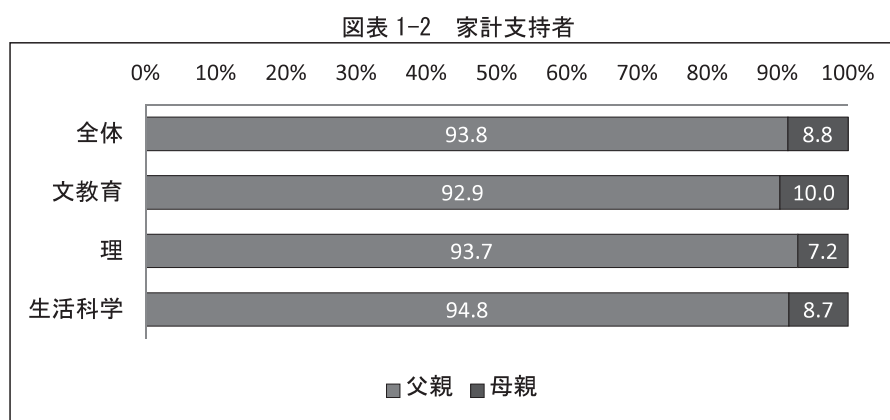
図表 1-1 は、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きを「ゆとりがある」「多少ゆとりがある」「あまりゆとりがない」「ゆとりがない」の4件法で尋ねた結果である。



全体でみると、「あまりゆとりがない」が 44.0%と最も多く、「ゆとりがない」と合わせると全体の6割を超えている。平成24年度新入生の保護者でも同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学2012, P35 参照）。

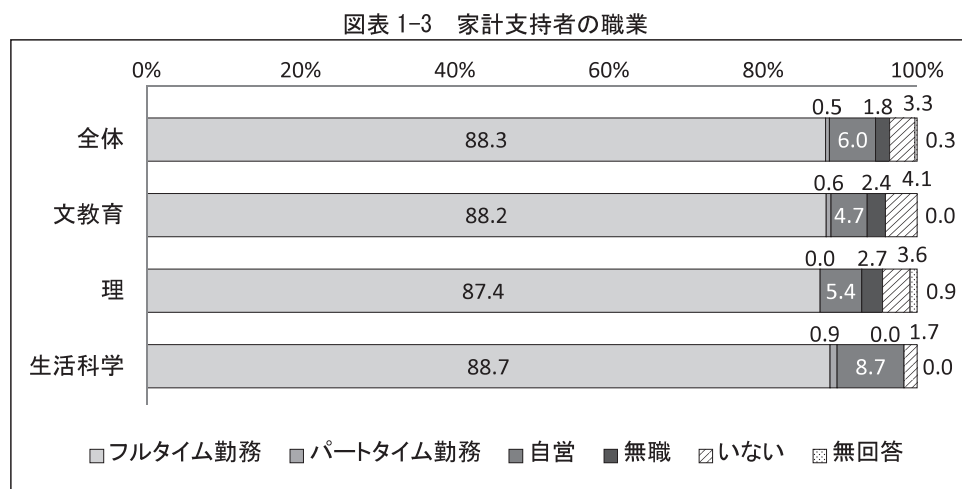
②家計支持者の職業

図表 1-2 は、新入生の家計支持者について、「父親」「母親」「その他」別に示した結果である。



新入生の家計支持者は、全体の93.8%が「父親」であり、学部別にみてもその傾向に大差はみられない。平成24年度新入生の保護者でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学2012, P35 参照）。

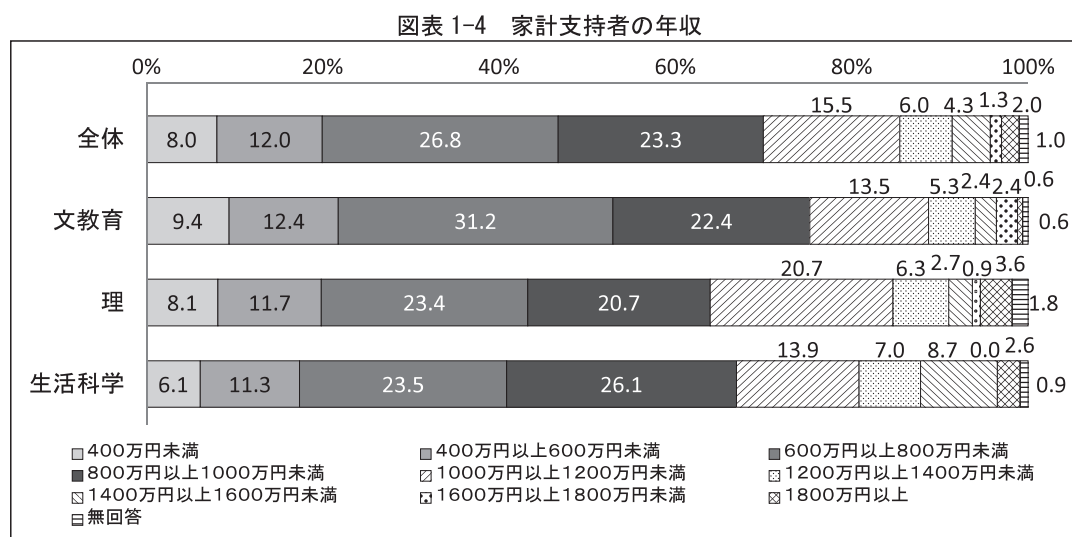
図表 1-3 は、家計支持者の職業について、「勤労者」「個人営業」「法人経営者・自由業者」「農林水産業者」「その他」「働いていない」別に示した結果である。



新入生の家計支持者の職業は、全体の 88.3%が「勤労者」であり、学部別にみてもその傾向に大差はみられない。平成 24 年度新入生の保護者でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2012, P36 参照）。

③家計支持者の年収

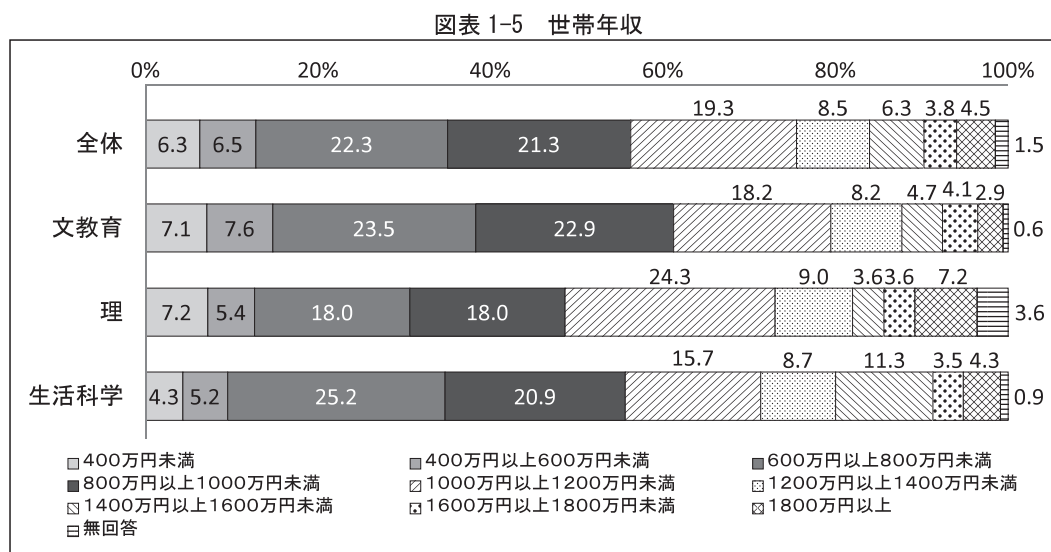
図表 1-4 は、新入生の家計支持者の年収について、「400 万円未満」「400 万円以上 600 万円未満」「600 万円以上 800 万円未満」「800 万円以上 1000 万円未満」「1000 万円以上 1200 万円未満」「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」の中から尋ねた結果である。



全体でみると、「600 万円以上 800 万円未満」が 26.8%と最も多く、続いて「800 万円以上 1000 万円未満」「1000 万円以上 1200 万円未満」の順であった。平成 24 年度新入生の保護者でも、同様の順であった（お茶の水女子大学 2012, P36 参照）。

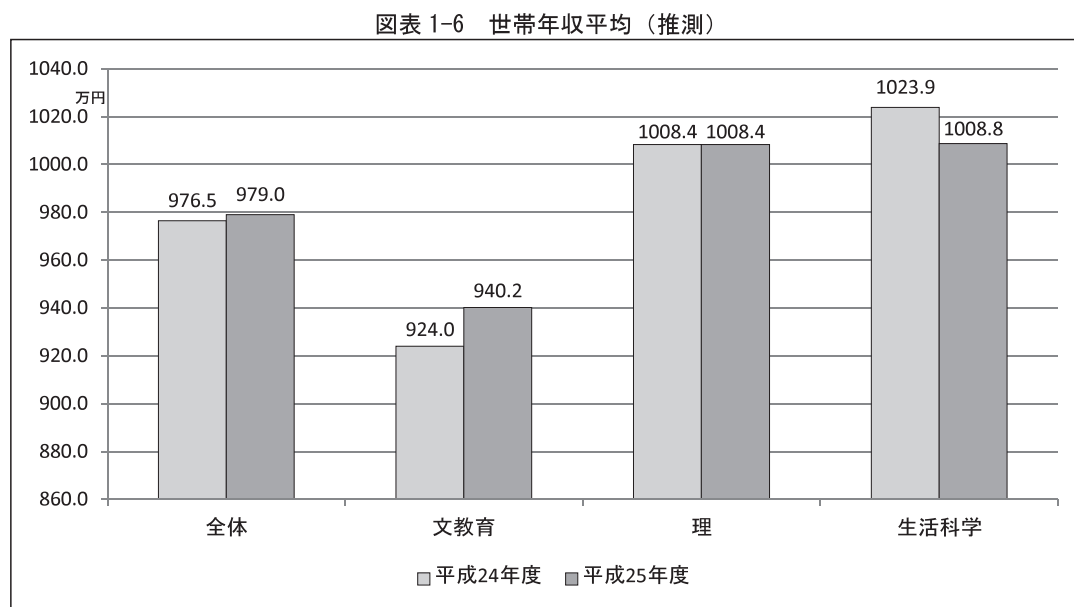
④世帯年収

さらに、新入生の家庭の世帯年収について、家計支持者同様に尋ねた結果が図表 1-5 である。



全体で見ると、平成 24 年度新入生の保護者では「800 万円以上 1000 万円未満」が 22.1% と最も多く、次いで「1000 万円以上 1200 万円未満」「600 万円以上 800 万円未満」の順であったが（お茶の水女子大学 2012, P37 参照）、今年度の新入生の保護者では「600 万円以上 800 万円未満」が 22.3% と最も多く、次いで、「800 万円以上 1000 万円未満」「1000 万円以上 1200 万円未満」の順へと変化している。

各カテゴリーの中央値に基づき、平成 24 年度および今年度の新入生の家庭の世帯年収平均（推測）を算出したものが図表 1-6 である。



全体で見れば 25,000 円増えており、文教育学部では 162,000 円も増えている。

とはいえ、平成 24 年度・今年度ともに、文教育学部は他学部比べて世帯年収平均が明らかに低く、世帯年収平均が増えている今年度の新入生でみても、他学部とは 700,000 円程度の差が示されている。

日本学生支援機構による「平成 22 年度学生生活調査」によれば、家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）は、図表 1-7 のとおりである。

図表 1-7 家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）

(単位：％)																		
区分		家 庭 の 年 間 収 入															計	(参考) 平均年間 収入都 千円
		200万円 未 満	200 ～ 300	300 ～ 400	400 ～ 500	500 ～ 600	600 ～ 700	700 ～ 800	800 ～ 900	900 ～ 1,000	1,000 ～ 1,100	1,100 ～ 1,200	1,200 ～ 1,300	1,300 ～ 1,400	1,400 ～ 1,500	1,500 万円 以 上		
男	国 立	4.0	4.6	6.8	9.0	8.5	9.5	15.6	9.7	6.7	9.5	3.4	3.2	2.6	1.0	5.6	100.0	7,950
	公 立	5.0	5.3	8.3	8.6	12.4	11.2	18.5	8.8	5.9	6.5	2.3	1.8	1.4	0.7	3.2	100.0	7,000
	私 立	4.2	4.5	7.4	8.8	10.2	10.1	10.1	17.8	5.9	7.2	3.1	2.7	1.4	0.9	5.8	100.0	7,880
女	国 立	5.3	4.9	6.8	7.7	7.5	10.0	17.0	9.3	6.1	8.3	3.5	3.4	1.8	1.7	6.7	100.0	8,060
	公 立	5.2	5.4	7.5	8.3	10.7	10.7	16.7	10.0	6.9	6.5	2.4	2.7	1.7	1.0	4.4	100.0	7,220
	私 立	4.0	4.4	6.0	7.4	9.2	9.2	10.3	18.5	6.2	8.3	3.7	3.4	1.8	1.0	6.6	100.0	8,140
平 均	国 立	(9.2) 4.5	(16.0) 4.7	(24.5) 6.8	(32.6) 8.5	(42.3) 8.1	(58.5) 9.7	(68.1) 16.2	(74.6) 9.6	(83.7) 6.5	(87.2) 9.1	(90.5) 3.5	(92.8) 3.3	(94.1) 2.3	(100.0) 1.3	(100.0) 5.9	100.0	7,990
	公 立	(10.5) 5.1	(18.4) 5.4	(26.9) 7.9	(38.3) 8.5	(49.2) 11.4	(66.7) 10.9	(76.2) 17.5	(82.6) 9.5	(89.1) 6.4	(91.4) 6.5	(93.7) 2.3	(95.2) 2.3	(96.1) 1.5	(100.0) 0.9	(100.0) 3.9	100.0	7,120
	私 立	(8.5) 4.1	(15.2) 4.4	(23.4) 6.7	(33.1) 8.2	(42.8) 9.7	(53.0) 9.7	(71.1) 10.2	(77.1) 18.1	(84.8) 6.0	(88.2) 7.7	(91.3) 3.4	(92.9) 3.1	(93.9) 1.6	(100.0) 1.0	(100.0) 6.1	100.0	8,010
	計	(8.7) 4.2	(15.5) 4.5	(23.7) 6.8	(33.2) 8.2	(42.9) 9.5	(54.5) 9.7	(70.7) 11.6	(76.8) 16.2	(84.7) 6.1	(88.1) 7.9	(91.2) 3.4	(92.9) 3.1	(93.9) 1.7	(100.0) 1.0	(100.0) 6.1	100.0	7,970

(注) () は、家庭の収入階層別学生数の割合の累計を示す。

出所) 日本学生支援機構「平成 22 年度学生生活調査」

家庭の年間平均収入額は、全体で見れば 797 万円、本学の学生が該当する国立大学・女子に限れば 806 万円であり、本学新入生の家庭の世帯年収は、国立大学・女子の年間平均収入額よりも、さらにいえば、私立大学を含めた全体の年間平均収入額よりも高いことがうかがえる（図表 1-6 参照）。

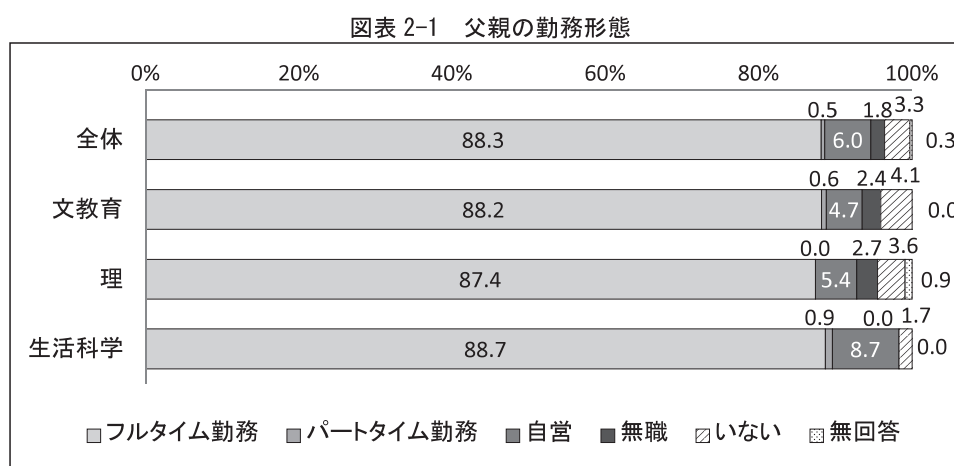
図表 1-7 からは、家庭の年間収入が 1000 万円をこえる家庭が、全体の 23.2%、国立大学・女子の 25.4%であることがわかる。それに対し図表 1-5 からは、本学新入生の家庭のうち、少なくとも 43.9%が、世帯年収 1000 万円をこえていることが示されており、世帯年収の高い家庭が、全国水準に比べて、本学新入生の家庭には多いことも明らかである。平成 24 年度新入生でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2012, P37-38 参照）。

(2) 親の職業・学歴

本節では、新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態、②親の職種、③親の学歴から示していく。

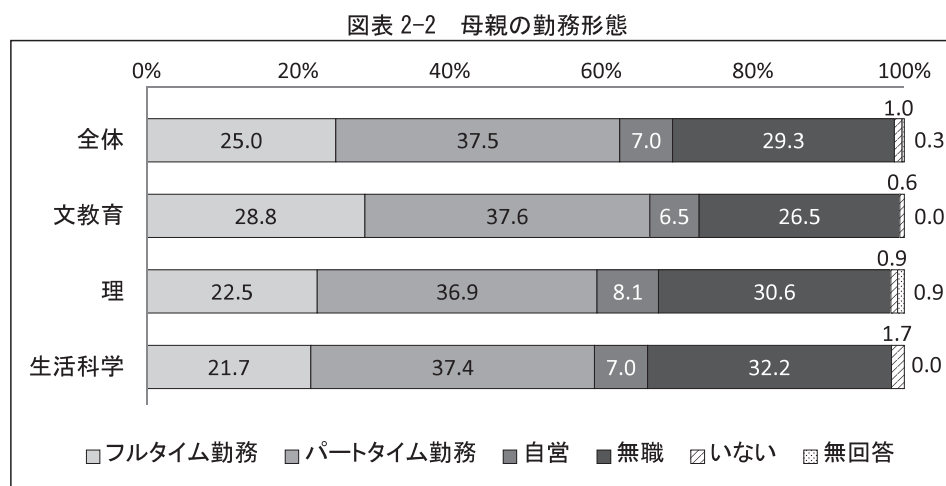
①親の勤務形態

図表 2-1 は、新入生の父親の勤務形態について、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」「無回答」別に尋ねた結果である。



新入生の父親の勤務形態は、全体のおよそ9割が「フルタイム勤務」であり、学部別にみても大きな差異はみられない。平成24年度新入生の父親も同様の結果が示されている（お茶の水女子大学2012, P39 参照）。

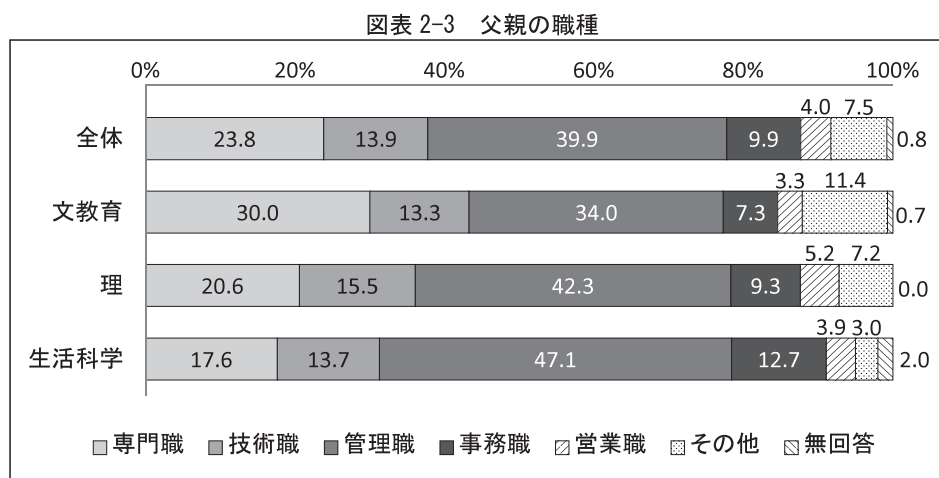
同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-2 である。



平成24年度新入生の母親の勤務形態は、全体でみると「無職」が35.7%と最も多く、次いで「パートタイム勤務」「フルタイム勤務」の順であったが（お茶の水女子大学2012, P39 参照）、今年度の新入生の母親は、「パートタイム勤務」が全体の37.5%とおおよそ4割に及び、続いて「無職」「フルタイム勤務」の順となっている。この結果は、学部別にみても大きな差異がみられない。

②親の職種

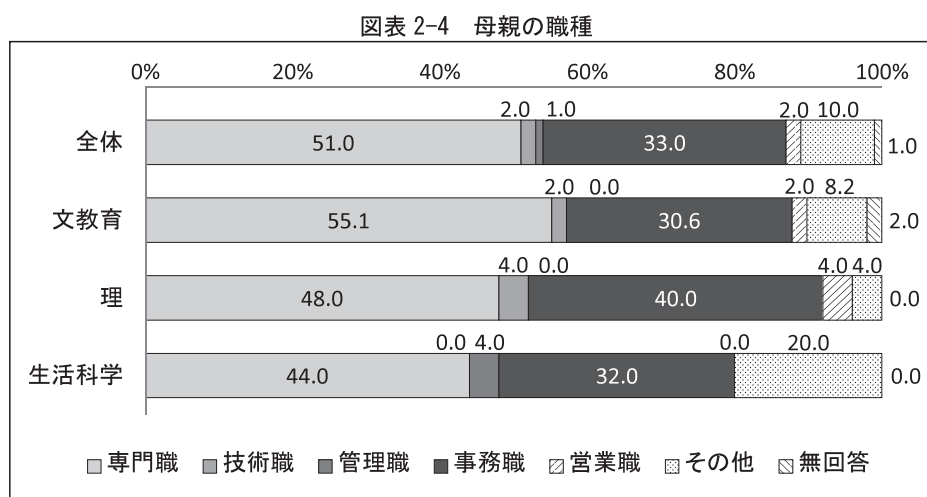
図表 2-3 は、新入生の父親の勤務形態について「フルタイム勤務」と回答した者に尋ね、「専門職」「技術職」「管理職」「事務職」「営業職」「その他」別に示した結果である。



新入生の父親の職種は、全体でみると、「管理職」が 39.9%と最も多く、次いで「専門職」「技術職」の順となった。平成 24 年度新入生の父親も、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2012, P40 参照）。

ただし学部別にみると、文教育学部では「管理職」と「専門職」で 4.0 ポイント差であるのに対し、生活科学部では「管理職」と「専門職」で 29.5 ポイントもの差がみられる。

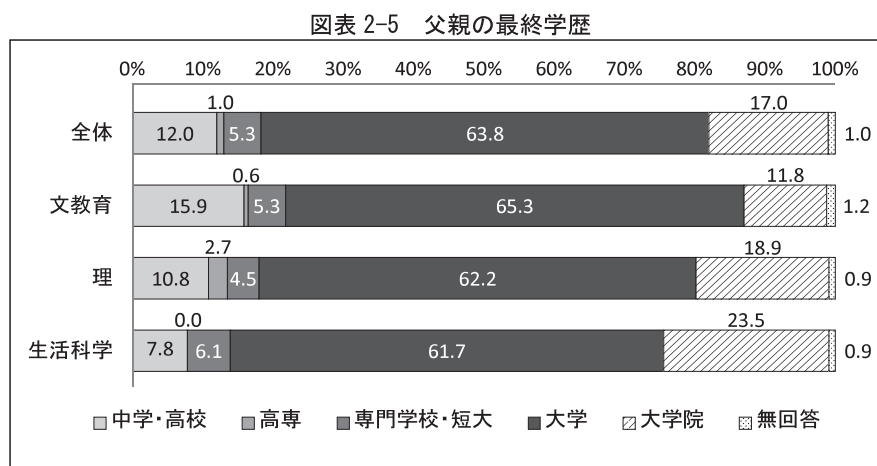
同様に、新入生の母親の勤務形態について「フルタイム勤務」と回答した者に尋ねた結果が図表 2-4 である。



新入生の母親の職種は、全体でみると、「専門職」が 51.0%を占めており、「事務職」がそれに続いて 33.0%となっている。これらの傾向は平成 24 年度新入生の母親でもみられるが、今年度新入生の母親は「管理職」が 5.0 ポイント以上減少している（お茶の水女子大学 2012, P40 参照）。

③親の学歴

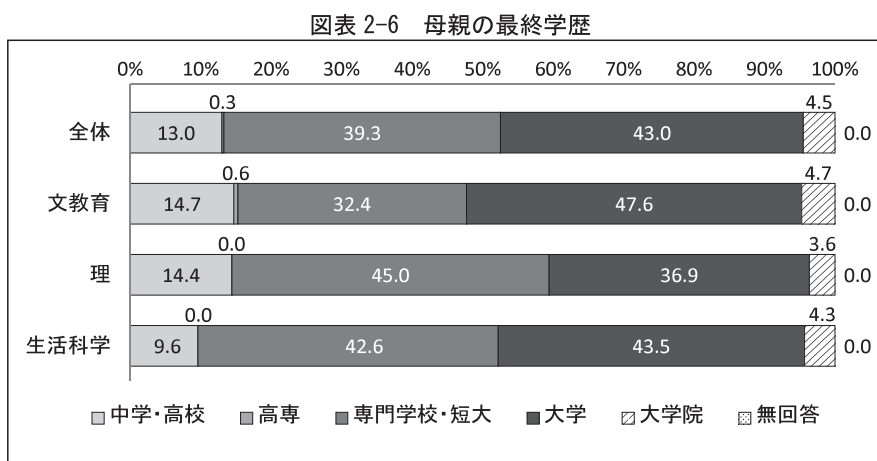
図表 2-5 は、新入生の父親の最終学歴について尋ね、「大学院」「大学」「専門学校・短大」「高等専門学校」「中学・高校」別に示した結果である。



新入生の父親の最終学歴は、全体でみると、「大学」が 63.8%と最も多く、「大学院」「中学・高校」の順で続いている。平成 24 年度新入生の父親も、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2012, P41 参照）。

ただし学部別にみると、「大学院」では生活科学部と文教育学部で 10 ポイント以上の開きがみられる。

同様に、新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果が図表 2-6 である。



新入生の母親の最終学歴は、全体でみると、「大学」「専門学校・短大」がそれぞれ 4 割程度を占め、それに「中学・高校」が続く結果となっている。平成 24 年度新入生の母親も、ほぼ同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2012, P41 参照）。

ただし学部別にみると、「大学」では文教育学部と理学部で 10 ポイント以上の開きがみられる。

(3) 大学入学後の経済・生活支援

本節では、新入生の大学入学後の経済・生活支援について、①奨学金・学費免除等の制度の「利用経験の有無」「認知」「利用希望」、②学生寮に関する「認知」「入寮希望」から示していく。

①奨学金・学費免除等の制度の「利用経験の有無」「認知」「利用希望」

図表 3-1 は、本学に入学予定のご子女が、これまでに受けたことのある奨学金・学費免除等の制度について、複数回答可として尋ねた結果である。

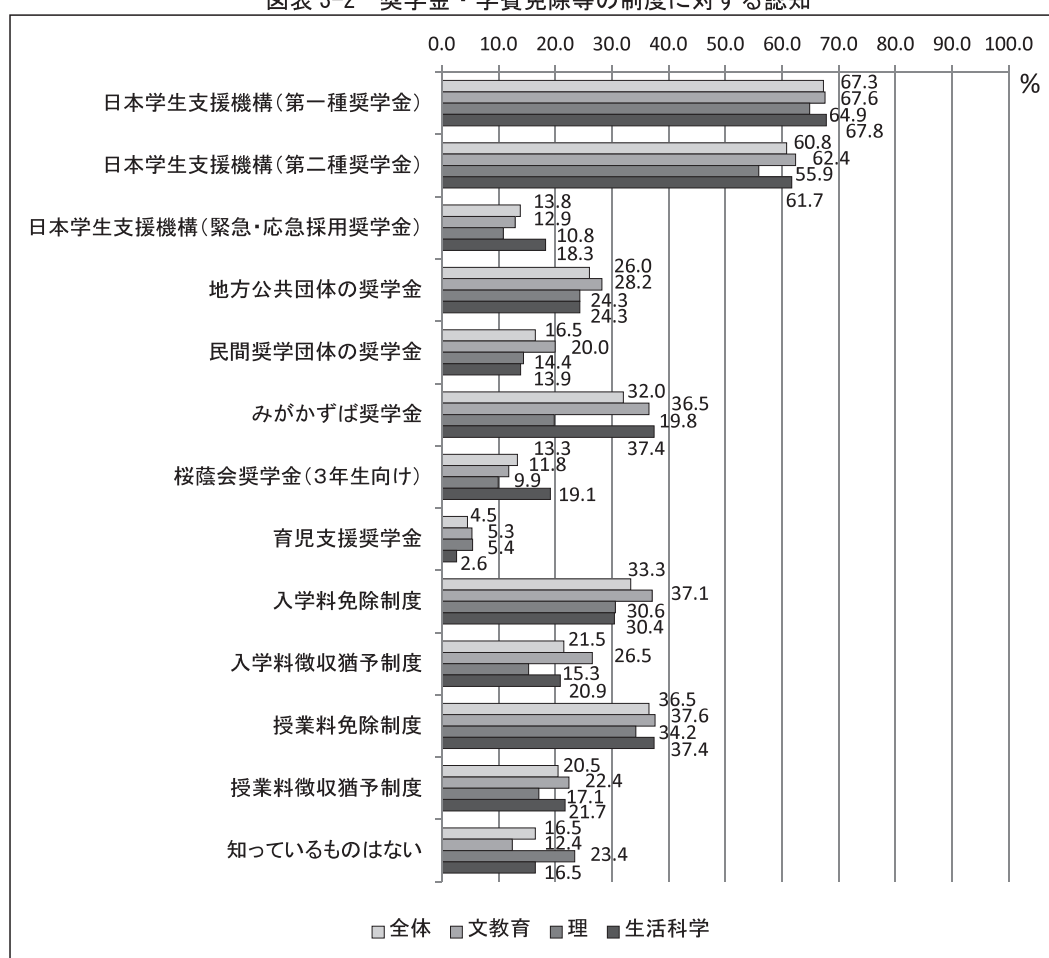
図表 3-1 ご子女がこれまでに受けたことのある奨学金・学費免除等の制度 (%)

	日本学生支援機構の奨学金	地方公共団体の奨学金	学校独自の奨学金	民間奨学団体の奨学金	新聞社の奨学金	その他の奨学金	学費免除	特待生
全体	0.8	2.0	2.5	1.5	0.0	0.8	2.0	4.5
文教育	1.8	1.2	2.4	2.4	0.0	1.2	2.9	2.9
理	0.0	1.8	4.5	1.8	0.0	0.9	0.9	6.3
生活科学	0.0	3.5	0.9	0.0	0.0	0.0	1.7	5.2

いずれもごく少数であり、他に比べれば利用率が高い「特待生」も、必ずしも経済的な支援を必要として受けたとは限らない。平成 24 年度新入生の保護者でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2012, P42 参照）。

続いて図表 3-2 は、奨学金・学費免除等の制度の認知について、複数回答可として尋ねた結果である。

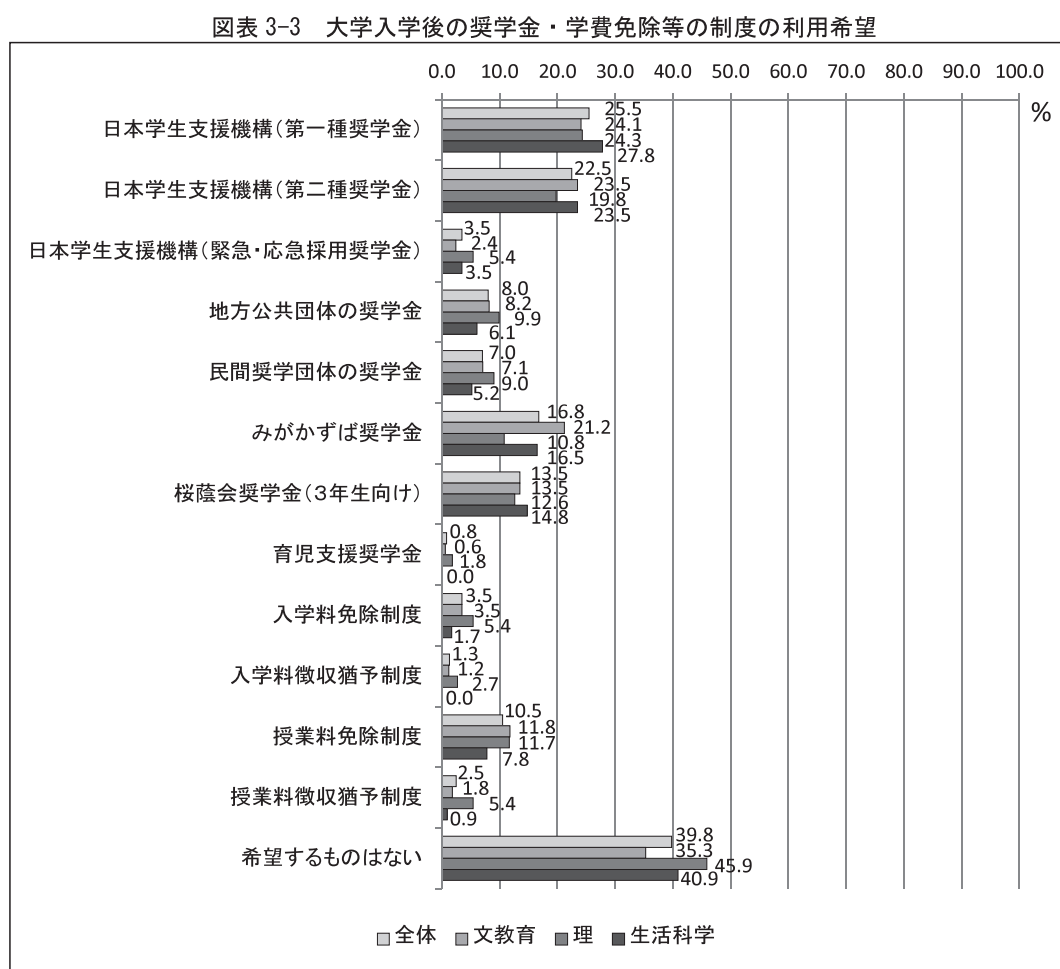
図表 3-2 奨学金・学費免除等の制度に対する認知



奨学金制度に関しては、日本学生支援機構による奨学金の認知がもっとも高く、第一種・第二種ともに全体の 6 割を超えている。また、本学の独自奨学金「みがかずば奨学金²」の認知の拡がりもみられる。他の奨学金は平成 24 年度新入生の保護者と大差ないが、「みがかずば奨学金」は全体でポイント以上増加し、日本学生支援機構による奨学金に次ぐ認知率である（お茶の水女子大学 2012, P42-43 参照）。

学費免除等の制度に関しては、免除制度に対する認知が全体の 3～4 割に及んでいるのに対し、猶予制度に対する認知は 2 割程度であった。平成 24 年度新入生の保護者でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2012, P42-43 参照）。

続いて図表 3-3 は、大学入学後の奨学金・学費免除等の制度の利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。



奨学金制度に関しては、日本学生支援機構による奨学金の希望が、第一種・第二種ともに最も高く、全体のおよそ 2～3 割でみられる。学費免除等の制度に関しては、「授業料免除制度」が 1 割を超えているものの、他はごくわずかに過ぎないことが示されている。

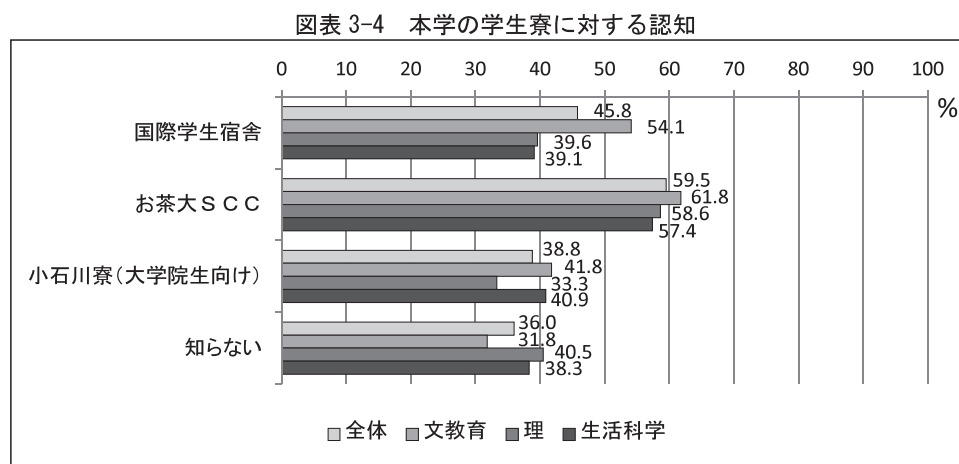
これらの結果は、平成 24 年度新入生の保護者と同様であった（お茶の水女子大学 2012, P43-44 参照）。ただし「希望するものはない」は、平成 24 年度新入生の保護者は

² 経済的理由で進学をあきらめざるを得ない生徒を支援しようとする取り組みであり、大学受験生を対象に合格決定前に奨学金の内定を出す予約採用給付奨学金制度として、平成 23 年度より国立大学では初めて導入した制度である。「条件を満たした上で合格すると受けられる奨学金（入学前予約型）」であり、給付型（返済不要）としている。詳細は <http://www.ocha.ac.jp/campuslife/scholarship/migakazuba.html>。

全体の 46.0%であったが、今年度新入生の保護者では 39.8%と減少している。

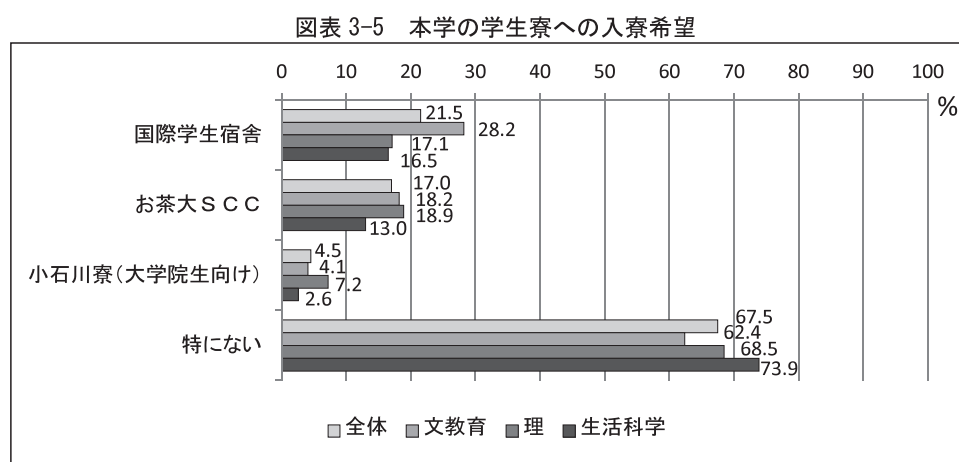
②学生寮に関する「認知」「入寮希望」

図表 3-4 は、本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ねた結果である。



全体でみると、「お茶大 SCC」が 59.5%と最も多い。「国際学生宿舎」がそれに続くが、文教育学部と他学部で 15 ポイントほどの開きがみられる。これらの傾向は、平成 24 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P44-45 参照）。

続いて図表 3-5 は、本学の学生寮への入寮の希望について、複数回答可として尋ねた結果である。



全体でみると、「特にない」は 67.5%であり、平成 24 年度新入生の保護者とはほぼ同様の結果である（お茶の水女子大学 2012, P45 参照）。ただし生活科学部と文教育学部では 10 ポイント以上の開きがみられる。

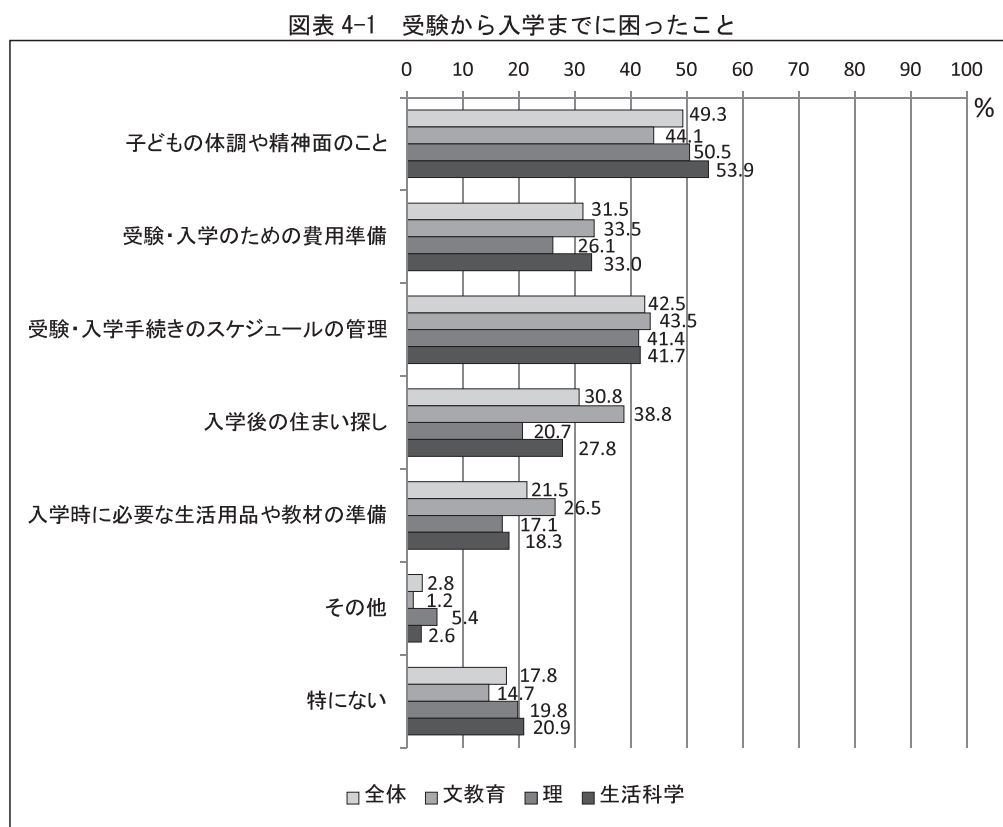
また、ご子女が入学後すぐに入寮する可能性のある 2 つの寮に対しては、「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」の順となっており、認知の順（図表 3-4 参照）とは逆の結果となっている。この結果は平成 24 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P45 参照）。

(4) 大学生活の不安・心配事

本節では、ご子女の大学生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものから示していく。

①受験から入学までに困ったこと

図表 4-1 は、「保護者に聞く新入生調査」を参考に、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果である。



全体でみると、「子どもの体調や精神面のこと」が 49.3%と最も多く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」がそれに続いている。この結果は、平成 24 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P46 参照）。

また、「特にない」は全体の 17.8%であり、平成 24 年度新入生の保護者と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2012, P46 参照）。

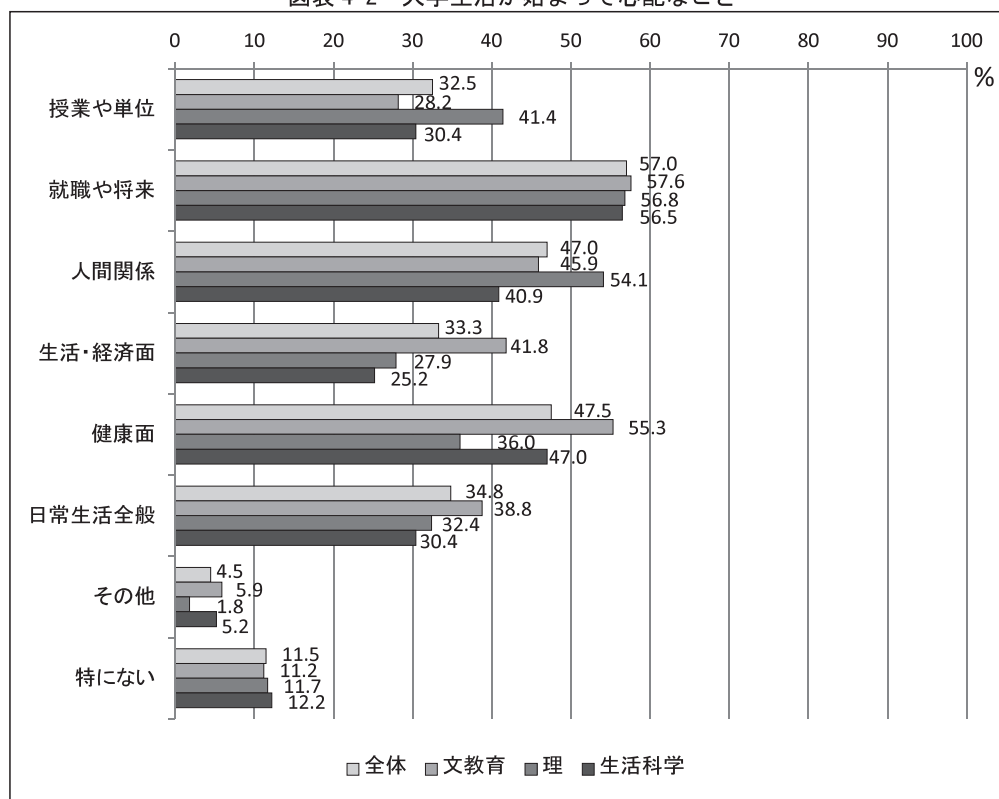
②大学生活が始まって心配なこと

図表 4-2 は、「保護者に聞く新入生調査」を参考に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。

全体でみると、「就職や将来」が 57.0%と最も多く、「健康面」「人間関係」がそれに続く結果となっている。この順果は、平成 24 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P47 参照）。

学部別にみると、「就職や将来」に関しては大きな差異はみられないが、「健康面」では文教育学部が高く、「人間関係」では理学部が高いといった傾向もみられる。「人間関係」では理学部が高いという結果は、平成 24 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P47 参照）。

図表 4-2 大学生活が始まって心配なこと



「保護者に聞く新入生調査」によれば、「就職や将来」は落ち着く一方で「大学での勉強」への不安は増加しているが（全国大学生活協同組合連合会 2012）、本学の新入生の保護者は依然として「就職や将来」への不安を少なからず感じていることがわかる。

また、「特にない」は全体の 11.5%であり、平成 24 年度新入生の保護者と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2012, P47 参照）。

③本学の学生支援活動で期待するもの

図表 4-3 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねたものである。

全体でみると、「就職支援」が最も多く、文教育学部や生活科学部ではおよそ 9 割に達している。次いで、「進路相談」「学習支援」が続いている。この順は、平成 24 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P47-48 参照）。

これらの支援活動は、本学に在学する学部生が「足りないところ」と感じている学生支援活動でもあることから、より一層の支援活動の充実と、その広報に努めていくことが必要であると思われる。

図表 4-3 本学の学生支援活動で期待するもの

